

学校生活をより豊かにするための支援を期待

教育長 学校生活支援員の適切な配置を行いたい



録画を配信

学校生活支援員

問 教員に欠員が生じても再配置が進まず、町が配置する学校生活支援員にも不足感があると聞いた。

町の支援は充実しているかと理解しているが、今後の方針はどうか。
教育長 代替教員などの適切な配置について、県教育委員会に対し要望を行っている。

学校生活支援員の業務は、個別対応を要する児童生徒へのきめ細やかな支援、教員の校務支援など多岐にわたり、重要な役割を担うことから、令和2年度より11名に増員するなど体制の強化を図って

いる。

引き続き各校の実情を的確に捉え、学校生活支援員の適切な配置を行いたい。

町長 本来は国・県が学校生活支援を行うべきだが、町単独でやらざるを得ない。白鷹町は管内で最も多く学校生活支援員を配置していると思う。

スクールサポートスタッフ

問 コロナ禍において派遣があった際は、授業準備などを担っていただき、学校現場はとも助かったと聞く。働き方改革は待ったなしであり、柔軟に要

望していただきたい。

教育次長 教員の働き方改革は大きな課題と捉えている。学校生活支援員の適切な配置などにより教員の負担軽減に努めたい。

地域と学校の協働

問 地域の協力により先生の負担感を減らす取り組みも、今後はあり得るのではないかと。
教育次長 令和3年度から全ての学校で学校運営協議会・コミュニティスクールを導入し、地域の皆様に地域学習支援など多岐にわたり子どもたちの学びを支えていただいている。町としても、その取り組みを支援したい。

スクールカウンセラー

問 スクールカウンセラーによる相談日は月に1〜2日程度であり、不登校などを新たに生み出さないためにも、常勤化や週1日など相談日を増やすことを検討すべきではないか。

また、安心して相談できるよう日頃から交流するなど信頼関係づくりも大切と思う。

教育次長 初期段階への支援も大切にしていく。知見を有する人材は限られ、常勤できる人材の確保は困難である。連携を密にし、より多くの希望にこたえられるよう努めたい。

信頼関係づくりに関しては、情報共有のほか、必要とする児童や保護者に対する紹介などで機を逃さずつなぐことを心がけている。今後も、安心と信頼

を大切にして一人一人に行き届いた対応ができるよう心がけたい。



横山和浩議員

